

水の郷づくりマップ

(水元・柴又・金町周辺)

水元の由来

水元と言う呼び名は、小合溜(旧名・小合溜井、こあいためい)からきていると言われています。この小合溜井は、江戸幕府が享保14年(1729)治水のために井沢弥兵衛に命じて中川を開削させたことにはじまり、平時は、東葛西側50余町村の灌漑用水(上下之割用水)として利用された水源地で田畑を潤す水の流出口であったことから水元「水元」となると言われています。

その後、明治22年、江戸期の上小合村下小合村・小合新田・猿ヶ又村・飯塚村が合併し、南葛飾水元村となりました。さらに昭和7年、葛飾区の誕生とともに、水元村は、水元小合上町・水元小合町・水元小合新町・水元猿ヶ又町・水元飯塚町となり、いずれの町名にも「水元」の名称がつけられました。これらの各町名は、昭和56年、住居表示の施行とともに東水元・水元・水元公園・南水元・西水元と変わり、現在に至っています。

観光案内板



閘門橋
(こうもんばし)

明治42年に吉利根川・小合溜井の水害防止のために造られた橋で、都内唯一のレンガ造りのアーチ橋です。



水元かわせみの里

カワナミなどの野鳥や水生植物、魚の観察ができるほか水元の動植物をわかりやすく展示しています。小合溜の水を浄化する施設でもあり



教育資料館
(きょういくしりょうかん)

都内に残る唯一の本道校舎で区の文化財に指定されており、館内は大正時代の教室を再現しています。



熊野神社
(くまのじんじや)

鳥居の扉には区指定天然記念物の椎茸樹齢350年以上のタブノキが2株あります。



水元グリーンプラザ

水元公園内の自然をわかりやすく展示したコーナーやチャラーがあります。



日枝神社
(ひえじんじや)

数少ない山王鳥居が特徴的な神社です。



水元さくら堤
(みずもとさくらつみ)

徳川吉宗公の治水事業の名残です。春には桜の名所として親しまれています。



小合溜
(こあいため)

約270年前に造られた旧吉利根川の治水池で、江戸の町を洪水から守り田畑を潤す水源地でした。このことから「水元」の名がつけられました。



旧水産試験場
(きゅうすいさんしけんじょう)

都の天然記念物に指定されているオニバスが生育している池や葛飾区が管理をする金魚展示場があります。



松浦の鐘
(まつらのかね)

都内唯一の梵鐘で、葛飾区指定有形文化財に登録されています。



遍照院
(へんしょういん)

葛飾区内で最も古い歴史を持つ寺院です。「黒形板碑」や「角形水鏡」、仏教に関する古写本などの区指定文化財があります。



ポニースクールかつしか

ポニーの乗馬、動物とのふれあいなど、子どもたちが直接ポニーと親しめます。



葛飾清掃工場
(かつしかせいそうじょう)

平成15年6月から、プラント更新工事を行ってまいりました葛飾清掃工場が、平成18年12月15日に竣工し、本格稼働しました。



香取神社
(かとりじんじや)

江戸時代から下小合村の鎮守で、毎年8月3日・日には「茅の輪くぐり」神事が行われます。



しばられ地蔵

南蔵院境内には縄に巻かれたお地藏様があります。このお地藏様に縄を巻いて願をかけて、願いが叶うと伝えられています。



花の木稲荷神社
(はなのきいなりのじんじや)

中川付近の花の木というところから現地に遷座したもので、旧新宿五丁目が氏子となっています。

金町の由来

鎌倉時代末、正中2年(1325)の年紀をもつ古文書に「金町郷」と記されており、それ以前に町郷として成立していたことがわかり、地名の由来は定かではありませんが、「町」とは鎌倉へ通じる鎌倉街道に面し、江戸川の渡河地点という交通の要衝であり古くから町郷として栄えたことに由来していると思われる。また「金」は溜という意味もあり、この地で江戸川が大きく蛇行することに由来しているのかもしれない。

柴又の地名の由来

柴又といえば、近年は「フーテンの寅」さんの故郷として、全国的に知られる観光の名所となっています。奈良東大寺の正倉院に保管されている「養老五年(721)下総国葛飾郡大嶋郷戸籍」に「嶋俣里」の記載があり、この「嶋俣(しまた)」が「しばまた」に転訛したものです。ちなみにこの奈良時代の戸籍にはトラとサクラの名が記されており、映画よりも1200年余も前にすでにこの地にトラとサクラが暮らしていたことがわかります。「嶋俣」の由来は、当時の地形を窺って名付けられた地名で「嶋」はデルタ地帯に形成された島状の地形をあらわし、「俣(また)」とは河川が合流する地点を意味します。中世以降、「しばまた」の表記は、柴俣、芝又、芝亦、柴亦など種々の字が当てられてきましたが、現在の「柴又」となったのは江戸時代以降のことです。



金蓮院
(こんれんいん)

境内には樹齢400~450年と言われる大羅漢樹があります。5月初旬のぼたんの花も見事です。



柴又帝釈天
(しばまたたいしやくてん)

柴又七福神帝釈天は、七福神のひとつ(毘沙門天)としても知られています。60日毎の庚申の日が縁日です。



葛飾柴又寅さん記念館
(かつしかしばまたとらぎんねんかん)

映画「男はつらいよ」の世界を9つのエリアに分けて紹介しています。日本人の心象的葛飾柴又「寅さん」の全てが分かる記念館です。



葛西神社
(かさいじんじや)

葛西崎子発祥の地、区内唯一の西の市が毎年11月に開かれ「金町のお酉様」として多くの参拝者で賑わいます。



矢切の渡し
(やぎりのわたし)

江戸時代初期に始まったと言われており、当時は農耕作に従事する者だけの渡しでした。現在は、都内唯一の渡しとして知られています。



葛飾区山本亭
(かつしかくやまもとてい)

大正末期から昭和初期の和洋折衷の大正ロマンを彷彿とさせる建築です。お抹茶や珈琲が楽しめます。



金町関所跡
(かなまちせきしよあと)

金町関所は、水戸街道が江戸川を渡る地点に置かれた江戸の東の関門です。



半田稲荷神社
(はんだいなりのじんじや)

創立千年を越す由緒ある神社、ハシカと安産の神様として知られています。



光増寺
(こうぞうじ)

尊厳の生んだ僧人「鈴木松竹」の墓があり、墓石は葛飾区指定文化財です。「嬉しさの人もいへず露の音」